

児童朝会 講話 ■令和4年 6月 13日

No.8 「大隅西 4」

校長先生の言葉は皆さん的心に届いていますか？だんだん暑い日が多くなってきました。体育など外で活動するときは、マスクをはずすなど熱中症に気を付けてくださいね。

校長室前の水槽にいよいよ熱帯魚を入れてみました。エビや貝もいましたので、みなさんかわいがってあげてください。

さて、先週の宿題にもたくさんの回答をいただき、ありがとうございます。問題は「なぜ安閑天皇は、この場所が牛の牧場にふさわしいと考えたのでしょうか？」日本書紀の「安閑（あんかん）天皇は535年9月に「牛を難波大隅（　）に放つ」というこの文章の（　）に適する言葉を考えましょう、というものでした。

なんと、今回は正解の人がいました。よくわかりましたね。正解は大隅「島」なのです。そう、このあたりは、もともと海に浮かぶ島なのです。

証拠はいくつもあります。まず、大隅神社の説明から。

「河内平野はかつて大阪湾が内陸部に入り込んでおり、河内湖と呼ばれる湖を形成していました。ここに淀川、大和川の土砂が堆積し「難波の八十島」と呼ばれるように多くの島がつくられています。その中の一つ大隅島に大隅宮があったとされています。大隅島は現在の大隅神社のあたりと推定されています。」

2つ目の証拠ですが、3、4年生が校外学習で行った自然史博物館にこんな地図があったのを覚えていますか？昔の大阪の地図です。

これで見る限り、今から550年前は大阪湾はいまよりずっと大きく、大阪平野は河内湖で、ほとんど海だったことがわかります。

やくせんひゃくねんまえ
約5千5百年前



本当でしょうか。

本当なのですが、この地図は空想ででたらめに書いたのではありません。ある証拠に基づいて、だからここが海だったということが明確になっているのです。その証拠とは何でしょうか？少しまわりの人と聞き合ってみてください。

これが、今週のお題です。ここがかつて海だった証拠は何でしょう。

今週も最後まで静かに聞いていただきありがとうございました。